

8-4-12 砂防・急傾斜専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 砂防・急傾斜専門委員会開催

専門委員会開催回数：10回

4月から翌年1月まで月1回のペースで専門委員会を開催し、技術委員会の報告・連絡、本年度検討項目の審議等を行った。

(2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や地震の頻発等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発し、特に、10月の台風19号による宮城県等東日本に多大な災害が発生した。令和元年の土砂災害発生件数は1995件（土石流478件、地すべり99件、がけ崩れ1418件、令和元年12月24日現在）に上り、昨年に続く土砂災害の発生となった。また、その被害は、死者22名、負傷者12名となっている。

当専門委員会では、これら災害調査等の支援を行うとともに、砂防技術の向上を図る観点から、頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題等を整理検討し、それらに基づき委員会活動を実施した。

(3) 令和元年度の活動

- a) 当専門委員会の活動状況パンフレット（平成30年版）を作成した（A3版表裏1枚）。
現地見学会、砂防講習会等で会員に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。
- b) 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課幹部との意見交換会を10月10日に実施し、砂防関係業務の現状と課題について意見交換を行った。
- c) 第14回砂防現地見学会は、近畿地方整備局六甲砂防事務所管内で9月6日に開催した（36社74名参加）。見学場所は、鋼製砂防構造物の施工現場と神戸製鋼所の鋼製構造物の組み立て現場を視察し、その後関係者との意見交換を行った。
- d) 平成30年度業務等に関するエラー事例等の収集・分析資料を作成し、取りまとめを行った。

品質セミナー（全国9支部）へ講師を派遣し、説明会を実施した。

- e) 第10回砂防講習会を11月25日に開催した（68社、111名参加）。講師は、国土交通省砂防部保全課山口真司課長に「近年の災害を踏まえた今後の砂防行政について」、政策研究大学院大学、小山内信智教授に「地震と土砂災害について」、国土技術政策総合研究所、坂井佑介主任研究官に「土砂・洪水氾濫対策と流木対策についての最近の話題」、中国地方整備局広島西部山系砂防事務所、大塚尚志副所長に「砂防堰堤の施工計画上の留意点について」、国土地理院地理空間情報部、佐藤壮紀課長に「ウェブ地図『地理院地図』の防災業務での活用」を講演頂いた。
- f) 砂防業務改善について、土石流・流木対策計画照査要領（案）等を作成した。また、砂防行政経験者との意見交換会を実施（1回）するとともに、斜め象限図、研修資料の検討を行った。
- g) その他、若手技術者交流会を開催し、若手技術者の発表技術の向上を図るとともにリクルート用のパワーポイントの改訂を行い、それらを用い日本大学、千葉大学で説明会を開催した。また、流木補足工設計事例集の検討を行った。

2. 次年度の活動について

令和2年度は、砂防部との意見交換会等を踏まえ砂防業務の諸課題を再整理し、それらの解決策を提案する。

- (1) 第15回砂防現地見学会を実施する。
- (2) 品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を行う。
- (3) 第11回砂防講習会を開催する。
- (4) 国土交通省砂防部等との意見交換会を開催する。
- (5) 平成30年度版活動パンフレットを作成する。
- (6) 若手技術者育成のための砂防若手技術者との交流会等を実施する。

（砂防・急傾斜専門委員会委員長 坂口 哲夫）